

Column

コンピュータによる 仕事の自動化

コンピュータとネットワークの進歩はすさまじく、これを利用してビジネスもどんどん自動化されつつあります。電子機器の開発から製造においても、設計から動作シミュレーション、部品発注や製造指示までネットワーク化されたシステムで正確に効率良く、しかも速やかに行われるようになってきました。

便利な反面、データが壊れたりウイルスが侵入したりする危険性や、情報漏えいが一度に大量に行えるといった問題点がありました。しかし、あらゆる方面から改善が行われ、その情報システムの安全や品質の管理方法も標準化が進んできています。

CAD/CAMをはじめ、あらゆるものがコンピュータにより自動化されている



ほんの十数年前までは、鉛筆で手を真っ黒にしながら回路図を書き、部品を一つずつ配置して、基板のアートワークを職人が手で書いていました。文明の進歩は速いと感じます。

人間が多く介在する仕事の方法では、まちがいの人もによってさまざままで、苦労した思い出があります。しかし、そこには顔を付き合わせてともに仕事をする人と人のつながり、人間関係がありました。端末からシステムに入力したり電子メールで指示するだけでは伝わらないぬくもりが、あったように思います。

どんなに便利なツールを手にしても、使うのは人間です。人間どうしのつながりと信頼が無ければ、良いものづくりはできないと思います。ツールをうまく使いこなしつつ、人間の「よさ」を生かしていきましょう。それこそ日本人の得意とするところのような気がします。

第2章の解説

製品開発計画に求められるものとは？



グローバル開発会議のようす

さて、企画会議で「こんなものを作ろう」と決まったら、詳細な製品開発計画をまとめ、ビジネス戦略を立案し、「これなら開発して大丈夫だ」という確認をします。

ビジネス戦略はあらかじめ立案されていて、詳細な製品計画を立ててから内容をフィードバックする場合もあるでしょう。そして、企画会議も何度か繰り返され、ビジネス戦略が修正されていくこともあります。

2-A 製品開発計画の策定

開発計画は、関連部門も含めてオーソライズ（決定）されなければなりません。その流れは、多くの電子機器の場合、こういったところでしょう。

- ① 製品開発計画立案（日程、仕様、コスト算出）
- ② ビジネス戦略立案、あるいは製品開発計画